

町内全地区で開催

まちづくりミーティング



11月14日から19日まで、各地区を対象に町長と語る「まちづくりミーティング」が開催され、約1000人のかたが参加しました。

町長から、まちづくりの基本的な考え方が説明されたあと、意見交換を行い、各地区の皆さまから「教育・産業・地域づくり」など幅広い分野についての貴重なご意見や質問をいただきましたので、その概要をお知らせいたします。

「子育て・教育」

Q 教育委員会として統合中学を東中に決定したのはなぜですか。

A 東中は建設年度が新しいこと、敷地、校舎面積、教室数の施設規模が充実していること、体育館の耐震化工事が済んでいることなどを総合的に判断した結果です。

Q 西中跡地の利用はどう考えているのですか。

A 跡地は、3・8ヘクタールという広大な敷地で町にとって大変貴重財産です。これまで学校用地として利用してきたこともあり、まだ統合決定ではないので現時点では特に活用案はありません。今後さまざまな意見をいただきながら検討していきます。

Q 荒砥高校を存続していくには、一時的補助金でなく独自の特色をだしていくべきではないでしょうか。

A 平成25年度入学生からは総合学科になる予定で、町では新たに平成24年度からホームヘルパー2級の資格取得に



対して支援を始める予定です。荒砥高校は大学・専門学校等の指定校(約100校)があるので、それを公開することや町の商工会などと協力して進学先・就職先についても考えていきます。

「雇用・産業」

Q 鮎貝地区土地区画整備事業の当初計画は、今年度で終了となっていました。これが2年延長するということは一般住宅の分譲が進んでいないからなのですか。

A 事業開始当初と比較する

と、リーマンショックなどで景気が悪化してきました。そのような経過から計画通り進んでいない状況で、平成23年3月で解散できなかったため、2年延長となりました。

今年からは、購入者への補助金として県外者100万円、町外者70万円、町内者50万円の補助制度を設けています。(2区画が売れた)また、四季の郷駅協に決定している工場「ニッセイエコ」が15区画分の購入を決めている。今後、統合保育園建設の協の用地が売れば、延長期間内で精算できると考えています。

Q 6次産業化については、生産・加工・販売という一連のサイクルを確立していくことが重要ですし、食品加工工場の誘致も考えていかないと農業の発展にはつながらないと思いますがいかがですか。

A たとえば、中山小跡地に建設中の小規模特養老人ホームの運営を行う聡明会の理事に中山区長が入っています。今後地元産の農産物を加工品も含めて使ってもらえるように進めていきたいという考えもあります。